

暦の上では秋だそうです。でも、まだまだ猛暑です。熱中症にご注意ください。

/// I N D E X ///

- ・ ISO 関連解説-----ISO14064-1(組織の GHG)の WD が出ました。
- ・ LCA の実務 mini 30---カットオフとデータベースから 2 次データを選択する方法
- ・ LCAF からお知らせ---再掲です : LCAF の事務所を移転しました。お立ち寄りください。
- ・ 編集後記-----40 年前のアメリカで驚いたこと

■■ ISO 関連解説 : ISO14064-1(組織の GHG)の WD が出ました。 ■■

ISO14064-1 (組織の GHG) の改訂が始まり、最初のワーキングドラフト (WD) が配布されました。各国のエキスパートがコメントを付けて、それを次のワーキンググループで議論するという手順になります。

前号 No.87 で ISO14067 (製品のカーボンフットプリント) の WD について、「全体としてこのワーキングドラフトは、改訂中の ISO14064-1 (組織の GHG 算定方法) と調和するという基本姿勢で作られています。それで、ANNEX (加工流通過程の管理の算定) も、組織と製品の両方に共通の ANNEX として書かれています。これが、この ANNEX をわかりにくいものになっている原因の一つです。調和するという姿勢は良いのですが、その両方に同じ文書載せるのでは、製品と組織の ISO を別々に作る意味がないと思います。」と書きました。これは、こちらの ISO14064-1 (組織の GHG 算定方法) でも同じことです。

今までの ISO14064-1:2018 では、電力の算定は「ロケーションベースで行わなければならない」とされていましたが、この WD では「全ての発電方法の GHG 排出量がわかっているならマーケットベースで算定する」と書かれました。再生可能エネルギー発電を推進するためには、一歩前進です。ただし、全ての発電の GHG 排出量がわかっていないのにマーケットベースを使う場合には、「残余 mix (マーケットベースで購入した電力以外のグリッドの GHG 排出量) を記す必要があります。また、ロケーションベースでの算定と併記する必要があります。

電力の GHG 排出量はできる限り使っている状況と同じであるべきとして、時間ごとの排出量を算定するのが望ましい(should)とされています。これは、GHG プロトコルの Scope3 基準の改訂で議論されている方法と聞いています。

この ISO14064-1 の改訂は、今後 GHG プロトコルの主導で行うという情報もあります。まだ、決まっていないようですが、具体的にはどうなるのか心配です。

言い忘れましたが、ISO/TS14064-4 (ISO14064-1 のガイダンス) の作成が DTS になりました。この TS は、現在の ISO/TR4069:2021 を TS にするものです。現在の ISO/TR4069:2021 とほとんど同じですが、削減貢献量 (Avoided Emission) の ANNEX が削除されています。この ANNEX が現行の ISO14064-1:2018 の追補 (Amendment-1) :2024 として発行され、ISO14064-1:2018 の一部になったためです。今改訂中の ISO14064-1 が出来上がるのは約 3 年後になるでしょうから、それまでは現行の ISO14064-1:2018 とその補遺、及び、今回 DTS になった ISO/DTS14064-4 が使われることになります。

■■ LCA の実務 mini 31 : カットオフとデータベースから 2 次データを選択する方法 ■■

「カットオフはたくさんある部品や原材料の大きいものから数えて 95%までを算定するというようにカットオフ基準を決めます。この%も自分で決める必要があります。最近では、データベースに様々な物質が載っているの、カットオフしないで、似たもので代用することが行われます。」と説明しましたら、「どういふものを似たものとして良いのか、その基準を教えてください」と質問されてしまいました。

「似たものの基準はないので自分で決めるしかないのです。」と答えました。これは、データベースの使い方の本質的な問題を含んでいます。

たとえば、皆さんの製品がポリプロピレン (PP) を使っているとします。この CO2 を算定する時に、たとえば IDEA を使うと PP があるので、皆さんは何のためらいもなくこの PP を 2 次データとして選択します。しかし、この PP は皆さんが実際に使っている (PP) ではなく、日本で作られている PP 全体の平均です。

環境省が公開している産業連関表を使った分析で作られているデータベースを使うときには、PP がないので「熱可塑性樹脂」を二次データに選ぶことになります。この「熱可塑性樹脂」のデータは、PP と似たものであるポリエチレンやポリスチレンを含んだ総合的なデータです。

つまり、データベースのデータは既に「似たもの」であって、「本物」ではないということです。それで最近では、サプライヤーにデータを聞くことが重要と考えられるようになりました。「本物」のデータを使うということですね。この場合は、サプライヤーが皆さんと同じガイドラインを使って算定しているかを注意深く見る必要があります。

話を元に戻します。「カットオフしないで似たもので代用すると言いますが、適切に選定しているか自信がありません。」という人がいます。そんな時は、カットオフした時の後処理を思い出してください。①「算定していない」と明確に言う。この方法は、算定の「システム境界外である」ことを宣言することになります。②算定した部分と CO2 が同じと仮定して割り戻す。この方法では 95%まで算定していたとしたら、その CO2 排出量を 0.95 で割って、全体を補正することになります。この二つの方法と③あなたが選定した似たもので推定した CO2 排出量を比べて、どれを公開するかという問題になります。結局、「本物」はわからないわけですので、②と③を比べて感度分析をすることを推奨します。

LCA 及び CFP の算定は自分で決めなければならないことが多く含まれます。今日の例でも「大きいものから数えて〇%まで算定する」及び「カットオフしないで似たものを考えて算定する」という自分で決めなければならないことが出てきました。「嘘つき（グリーンウォッシュ）」と言われない判断が必要とされます。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

○[再掲です] LCAF 事務所を移転しました。

・新しい事務所は、〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-2 渡辺ビル 5F です。

<https://lcaf.or.jp/2025/office2025/>

東京メトロ丸の内線新宿御苑前駅から新宿通りを四谷方面（新宿 3 丁目と反対側）に歩き（徒歩 4 分）、新宿 1 丁目交差点の「コメダ珈琲店新宿御苑前店」の手前渡辺ビルの 5 階です。

○[再掲です] 新しい参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」を発行しました。

以下からお申込みください。（3,000 円＋税＋送料）です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

■■ 編集後記：40 年前のアメリカで驚いたこと ■■

1984 年の 5 月に米国ワシントン DC の近郊のメリーランド州ギーザスバーグ(Gethersburg)の研究所に客員研究員として務めることになりました。2 年弱の滞在でした。もう 40 年も前のことになります。

まず、アメリカのスーパーマーケットが大きいのに驚きました。この町には、小さな湖があり、そこにレイクフォレストモールという複合商業施設があります。今でこそ日本にもイオンモールがあるので想像するのが簡単ですが、当時の私はびっくりしました。大きなスーパーマーケットだけでなく、大手の衣料品チェーン店や映画館まであるのです。もちろん自動車でないといけない。車と免許証の入手が最初の仕事でした。

スーパーマーケットでは、何もかも大きいのに驚きました。パンの袋も食べるのに何日もかかるという大きさですし、ミルクもガロン(3.785 リットル)のプラスチックボトルで売っています。私が毎日お世話になったのはガラスのガロン瓶で売られているカルフォルニアの白ワインでした。ビールも何種類かありますが、どれも薄いのでびっくりしました。ビールの小瓶の蓋は手でひねって開けます。レストランでは、水ではなくてとても薄いアイステイを頼みます。コーヒーもとてもアメリカンでした。最近のレストランやホテルのコーヒーは少し濃くなっているようです。

小さいものでびっくりしたのは、赤白青の歯磨きです。これは後日に日本に上陸しました。シリアル、つまりコーンフレークの種類の多さにもびっくりです。ダイナー（映画によく出てくる車で行くレストラン）で注文した時に「スペシャル K で良いか？」と聞かれて何のことかわからないので困りました。子供のテレビ番組では（トム&ジェリーやバックス・バニーはその頃も人気番組のようでした。）、何種類ものシリアルの宣伝を流しています。スペシャル K もその後日本に上陸しました。アップルサイダーはリンゴジュース、アップルソースはリンゴを擦ったものです。これも既に日本に上陸したのでしょうか。ピーナッツバターはリンゴを擦ったものです。これも既に日本に上陸したのでしょうか。ピーナッツバターの製造機がスーパーにあります。ピーナッツバターは甘くないです。隣の子供のお弁当を見せてもらいました。食パンにピー

ナッツバターが塗ってあるだけでした。

コミュニテイのプールも、旅行の時に泊まるモーターのプールも、一つのプールに幼児用の浅いところから大人の飛び込み用の背が立たないところまであります。競泳用というわけにはゆきません。日本のように小中学校にプールがあるのは、世界的に見てもめずらしいと思います。

どこの家庭もバーベキューセットを持っています。休日には、公園のピクニックエリアでバーベキューをします。チャコールに火をつけやすい液体も売っています。チャコールは、冬には雪だるまの目になります。そういえば、人工のクリスマスツリーにモミの木のにおいを付けるスプレーを売っていました。生木のクリスマスツリーは年が明けると集積場に持ってゆきます。市で回収するのですが、きっと燃やすのだと思います。

振り返れば四季の豊かなところでした。日本も美しい四季があると言われていましたが、最近では夏と冬しかないようです。ギーザスバークにもう何年も行っていませんが、あちらの四季も失われているのでしょうか。「掘って掘って掘りまくる」国ですので、しかたないですね。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見,ご感想,この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-2 渡辺ビル 5 F

電子メール: a.inaba@lcaf.or.jp

電話: 090-1423-0863

URL:<http://lcaf.or.jp/>